

(20) 佐々神社 (ささじんじゃ)

住 所：三重県伊賀市音羽618

TEL : 0595-43-0607

参拝日：2013年12月11日、2014年6月15日

式内社：伊賀國阿拝郡 佐々神社旧村社

主祭神：八重事代主命

祭 神：須佐之男命、倉稻魂命、大己貴命、金山彦命、大山祇命



鳥居と参道



拝殿と英霊殿



手水舎

明神造りの石の鳥居をくぐると右手に佐々神社の石柱が建っている。しばらく参道を歩き、石段を上ると、左手に手水舎、正面に平入、寄棟造りの神楽殿と左手には境内神社の英霊殿（戦没者）、右手には参籠舎と社務所がみえる。神楽殿と拝殿の間には石段があり、その両端に陶器でできた赤銅色の阿吽の狛犬が警護している。本殿は枕木が3本と外削りの千木がのった神明作りで、見ることはできなかったが、宝物として木造の狛犬（1686年大工安場源六作銘）が安置されているようだ。社叢にはツガ、ヒサカキ、アカマツ、ヒノキ、シャシャンボ、ウリカエデ、ヤブツバキ、アカガシ、アラカシ、シラカシ、サザンカ、アラカシ、アカガシ、ウメモドキ、サカキ、モミジ、ツブラジイ、コシアブラ、ホオノキ、カナメモチ、シラカシなどがみられる。

祭祀：例祭12月10日、祈年祭2月、祇園祭7月、新嘗祭11月

宝物等：狛犬（木造・貞亨3年（1686）3月大工安場源六作銘）

由 緒：

創立年月日不詳であるが、『文徳実録』に「嘉祥三年(850)6月庚戌伊賀国佐佐神に従五位下を授と」あり、『三代実録』には「貞観一五年九月己丑授伊賀国佐々神社従五位上」とある。『藤堂元輔按』には「古昔在近江国界篠嶽文録年間遷子今之地」とされている。明治40年に八雲神社など七社を合祀した。

(三重県神社誌 三重県神社庁)



本殿



陶器の狛犬

由 緒：

佐々神社は延喜式内及び国史に記載されているので、他に類似社のない事が断定できる。創立の年代は不祥である。伊山故事考及び伊賀古代氏族考によれば往古近江国界篠嶽に鎮座していたのを文禄年中に現在の地に遷すとある。

古代より祭祀であったことは疑う余地はない。総国風土記によれば持統天皇3年己巳8月封田29束を奉るとなっているのを見ても、朝野の崇敬が厚かったことを知ることができる。主神八重事代主命は、我国正史上著名の神で、如何にその御功績の偉大かは記紀2典に明らかである。故に、本社は古来一般の尊敬高く特に授乳の霊驗顕著であり遠近より産婦で母乳少ない人の参拝者は伊賀、大和、山城、近江等より参拝されている。

松尾某は当字の住人で文禄年間佐々神社を今の地に遷し奉仕したと言う。その昔、篠ヶ嶽にあった頃より松尾某は信仰が厚かった。松尾某の妻は分娩し男児を出産したが乳が出なく困ったので7日間篠ヶ嶽へ籠もり一心不乱の祈願をし乳が出たと言う。誠に神のお告げと崇め、敬いその御神徳を感じたとある。全国神社祭祀祭礼総合調査 神社本庁 平成7年